

第70回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境（雑木林）の順応的管理—

2月の研修会は、1月に引き続き皆伐予定地の雑木林の維持管理及び調査を行いました。



2月の谷戸山公園の田んぼでは、越冬に訪れているアカハラやツグミが探餌する姿が見られました。



先月に引き続き、樹林管理の研修です。研修場所の樹林は現在、「皆伐更新」を進めています。範囲内の全ての木を切り、今まで暗かった林床に光を入れる事で、森の若返りを図っています。

本日の作業は、皆伐による今後の森の変化を追っていくための、樹林の現況調査です。



まずは先月に引き続き、樹木の位置を
図面に落とすための三角測量を行います。



そして、すでに伐採されている場所は、
図面と照らし合わせながら、
切り株に番号をふっていきます。



番号がふられた樹木から、年輪を数え、
図面に情報を記入していきます。



左からヤマザクラ、イヌシデ、コナラの切り株です。樹種の違いだけでなく、それぞれの生えていた環境などによっても、年輪のつき方は一つ一つ違うようです。この調査で、それぞれの木々の勢力関係や、森がどう遷移してきたかなど、色々な事がわかってきます。



午後は、皆伐や間伐作業で大量に発生する木材の使い道について話し合いました。多くの地域の方に参加してもらって、管理と楽しみを繋げられるような使い道を、今後も考えていきます。



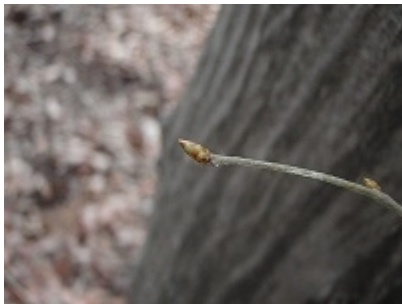
その後は、初めて参加された方が多かったので、改めて、木の切り方のレクチャーがありました。まず、倒れやすい方向に、三角の「受け口」を切っていきます。



そして、切り込みの反対側から刃を入れて「追い口」をつくり、切り倒します。
倒れる時は、周囲の人に声をかけ、安全を確認します。



樹林内には、写真(左)のように枯死している木もあります。
表面をはがしてみると、ムカデの仲間(写真:中)やクチキムシの仲間(写真:右)を
見つける事ができました。冬眠していたのでしょうか。



こちらは、両方ともイヌシデの冬芽です。左は正常な冬芽、
右はダニの一種に寄生されて、イヌシデメクレフシという虫こぶになっています。
この虫こぶは、枝の先端の芽にしかできないんだそうです。不思議ですね。



最後に、講師から今日のまとめと、今後の研修の
展望などについて説明があり、今回の研修会は終了です。

これで今月の現場研修会は終了です。3月も引き続き調査や作業を進めていきます。
皆伐された樹林の経過を間近に見られるいい機会ですので、ぜひ生きている森の姿を、見て、触
れて、体感してみてください。